



大  
文  
庫

千八百八十一年七月廿六日(土曜日)ジヤパンへニルド抄譯  
イ、エチ、ハウス民ノ掩フヘカラサル作書

114  
A 759  
5



大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

千八百八十一年七月二十六日 土曜日 日マバンへラル  
ド訳

イ、エチ、ハウス氏ノ掩フヘカラサル作書

余輩ハバル、マルカゼツト新聞ニ録載セルハウス氏  
ノ手筒ヲ敢テ爰ニ再刊セサルヘシ蓋シ其然ル所以ノ  
モノハ彼ノ手筒ヲ組織セシ論旨ノ多分ハ即チ曾テ東  
京タイムス新聞ニ表出セル者ニシテ其発行ノ當初ニ  
於テ既ニ頗ル論弁ヲ尽セルヲ以テナリ蓋シ該記者ク  
奇怪ナル狂病ニ感觸マル丁ニ當地ニ於テ洽子ク人

大友宮

知ル所ニシテハウス氏流ノ譏讖ニ遇スヲ為メニ精  
ク毒マラレントヲ畏ル、人ハ記者ヲ視ルト狂犬ノ如  
ク皆勉テ之レニ遠カラントヲ冀ヘリ夫レ如此已著  
明ナルカ故ニ在任人ハ殆ト之カ感染ヲ受ルト稀ナ  
リト虽氏始テ渡來セル外人ハ未タ事情ヲ知ラサルヲ  
以テ十分ノ用心ナクシテ動モスレハ其毒ニ觸ル、ト  
アリ已ニサルイ、ジリト氏ノ痛ク冒辱ヲ受ケジエ子  
ラル格蘭ト、及サル、ジョン、ホラプヘン子ツシイ氏  
等モ亦タ此毒ニ感染シタリキ蓋シ此病毒ハ只藍色書  
冊英國ニテハ政府ノ諸報告書皆  
藍色ノ采紙ヲ用エ故ニ云フ以テ醫スヘクシ凡庸

醫藥ノ能ク治シ得ル所ニ非サルナリ

然リト虽氏余輩令バル、マル、ガウエツトニ録載セル  
手筒ヲ閱スルニハウス氏ノ常トシテ自ラ称メ明確ナ  
リトスル所者ヲ演スルニ先テ縷々小引ヲ列セリ即  
チ已ガ話説ハ精確ニメ攻撃ヲ受ケタルハウス氏ノ為  
メニ公使ニ代リ為ニ弁白ヲ試ミント欲スル人々カ如  
何程巧ミニ之レヲ忌避セリトスルモ決シテ其間アラ  
サルナリト而メハウス氏ハサト、パルリト、パークス氏  
ノ驕横ニ関シテ同種ノ事情三項ヲ擧ケ若シ乞フ者ア  
ラハ尚一層ノ詳説ヲ供出スベシト云ハリ且又笑フ

大  
女  
宮

キ虚飾ヲナシテ曰ク不祥ナル話説ヲ縷陳スルハ自  
好シテ為ス所ニ非ナルナリト  
以上述ル所ハ華麗ナル「ペクスニツフエン」者流  
エントハ「ジツケシ」氏著ハ「タル」マルチエース  
レウイトト題セル小説中外貞ノ飾ヲ務ムル人ノ名  
ノ香味ヲ含ミ而シテ著シク之ヲ再癸セル者ナリ余輩  
ハ敢テ意ヲ勞サズ徐カニ二三ノ筆誅ヲ下シ彼カ銳意  
ノ外面ヲ裝飾シ内部ヲ膨脹シ以テ事ヲ知ラサル英國  
公衆ニ呈示セル此三ヶノ同種ナル風袋ヲ破碎シ去ラ  
ントス

其第一項ハ即チ左ノ如シ

余ハアトランチックモンズリニ於テ公使ハ日本  
政府ノ指定セル海關所設ノ場所ニ依ラスレテ隨意  
ニ上陸スル英人ヲ保護スルヲ名トシテ要港ノ沿岸  
ニ外兵ヲ留置マン「ト」ヲ脅請セリト「ト」ヲ記セシガ  
抑モ此事タル日本屯在ノ英兵（此屯在ハ在留英人ノ  
安全ヲ保ンスル為メ必要ナリトノ口実ニ出ツ引拂  
ノ少シク前ニ至テ税関ハ此等ノ短定外ノ場所ヨリ  
随意ニ上陸スル人民ノ非常ニ密商ヲ行フ「ト」ヲ癸見  
セリ蓋シ政府ハ物呂ヲ受取り且ツ之ヲ監査スル為  
メニニヶ所ヲ備エ相去ル「ト」半英里実ニ商業上ノ需

用ニ向テハ十分足レリトス然レモ沿岸ニ何レノ場  
所ヲ問ハス舟ヲ走ラセテ其貨物ヲ密賣スルノ陋習  
ハ遂ニ一ノ重大ナル害ヲ為スニ至リレカ故ニ政府  
ハ適當ニ指定セル場所ニ由ルニ非ラサレハ何人々  
リトモ決シテ工陸ヲ許サバレルノ令ヲ發セントセシ  
ハ是レ自國保護ノ為メニハ敢モ單純ニシテ且相當  
ナル處置ト云フベシ然ルニ公使ハ之レヲ探知シ外  
務卿ノ手ヲ經スレテ直ニ書ヲ太政大臣ニ寄セ若  
ト斯ル布告ヲ發スルアラハ兵卒ヲ派ニ布キ以テ英  
國人民カ何處ヨリ工陸スルモ之ヲ保護シテ禍害ヲ

蒙ラサラシメントスト蓋シ外務省ヲ差措キ直ニ  
太政大臣ニ通シタルノ一事ハ以テ方今ノ外交側短  
ヲ破リタル者トナスヘキハ殆ント余カ弁明ヲ待タ  
ザルナリ然レトモ尚眼ヲ一層重大ノ点ニ著スレハ  
此業ハ敢テ願ミルニ違アラス但シ此脅迫ハ充分其  
効カラ表ハシ日本政府ハ豫レメ此布令ヲ發行シテ  
為メニ受ケントスル所ノ侮辱ヲ避ケテ遂ニ此令ヲ  
發スルヲ能ハスレテ止ミタリ故ニ密高ハ少モ抑制  
ヲ受ル所ナク愈々其惡業ヲ擅マハニスルヲ得恐  
テクハ今日モ尚ホ此弊ノ存續スルヲナルヘシ然レ

而シテ此事件ノ来歴當時日本ヨリ女皇陛下ノ外務  
省ニ照會セシカ其果ノ回答ヲ受ケシヤ否ヤ余ノ知  
リ得ル所ニアラサルナリ

右ノ如クハウス氏ハ短簡ナル事實ニ就テ冗長ナル説  
話ヲナシタリ然レモ第一日本ニ於テハ決シテ氏ケ云  
フ如キ密賣アリシトナシ蓋シ関税ハ低クシテ懲罰ハ  
却テ重キ故ニ密商ヲ勵進スルノ媒介タル者ハ一モ之  
レナケレバナリ然ルニ税関ハ密商ノ行ハレ得ヘキヲ  
察シ商家ノ舟ヲ蓄ヘ己ガ便宜ノ所ニ繫キ開港以來絶  
ヘズ享受セル利益ヲ一旦ニ剥取セントテ謀リ各國公

使等ガ日本ノ冀望ヲ満足セシムルノ見込ヲ以テ相謀  
ル期ヲ待タスシテ兵カラ以テ商家ノ舟ヲ提ヘ埠頭ノ  
外凡テ工陸ヲ禁ゼントセリ故ニサル、ハルリト、バーク  
ス氏ハ之レヲ探知シ己ムトテ得ス速カニ報信ヲナシ  
若シ必要ナクシテ兵カラ濫用スルアラハ余モ亦タ兵  
カラ以テ之ニ應スヘシト云ヘリ而シテ其直ニニ太政  
大臣ニ通セシ所以ハ素此ノ事ニ付外務卿ヨリ何等ノ  
通牒ヲ得サリシヲ以テナリ而シテ此決局タル日本ノ暴  
振ヲ停止シ却テ親密ト交誼ヲ組織致すヲ得タリ  
是又在箇ノ外人ハ素ヨリ密商者ニ非サルヲ以テ自國

及て日本兩政府ノ意ヲ体シ尔後決シテ埠頭ノ外上陸  
スルヲナシ夫レ斯ノ如ク公使ノ確實ニシテ且ツ親密  
ナル處置ハ禍乱ヲ未タ癸セサルニ防キ日本モ未タ兵  
カヲ要セス卒和ノ處置ヲ以テ其冀望ヲ滿タスヲ得リ  
リ此時ニ方テ若シ公使ノ此處置ヲカセハ未タ其結果  
ノ如何ヲ知ルヘカラサルナリ余ハ第一項ニ就テ茲ニ  
筆ヲ止メ令第二項ニ移ラントス曰

余ハ先ニ公使カ職權内ニナキ布令ヲ癸シ英國商人  
ヲシテ定規ノ輸出石炭稅ヲ免カレシメ其結果ハ日  
本政府ノ國庫ヲシテ大ナル損失ヲ負ハシメタルト

ノトヲ語リシガ令其詳細ヲ説カンニ千八百六十九  
年ノ末公使ノ印ヲ捺セル布令ヲ癸スルアリ曰ク公  
使ト日本政府トノ間一ノ定規ヲ約シ尔來輸出癸  
錨ノ汽船ニ蓄フル所ノ石炭ハ凡テ該船航海用ト見  
做シ関稅ヲ免除スベシト此時ヨリ石炭ノ関稅ヲ廢  
シ帝國ノ歲入幾千磅ノ減少ヲ来セリ日本政府ハ公  
使ニ向テ竊モ公明ナル手續ヲ以テ屢々斯ル契約  
ヲ一致セルノ証跡ヲ請求スレトモ未タ且テ之ヲ示  
サス蓋シ示スアタハサルナリ何トナレハ素ヨリ  
斯ル証跡ノ存スルヲナケレハナリ故ニ日本政府

ハ断然斯ル處置ヲ承諾セシトナキヲ主張スレド  
唯談判ノ際前段ニ均シキ脅迫ノ再出セシトテ恐レ  
テ今日ニ至ル迄其損失ヲ忍ヘリ  
抑モ此項ニ関シテ其実事ハ如何アリシカ夫レ條約ニ  
依リ凡ソ船舶ノ用ニ供スル品類ハ總テ免税トナス而  
シテ石炭モ亦タ其一ニ居ルナリ当時日本政府ハ其船  
ニ蓄フルハ船用タリ其船ニ積ムル者ハ高品タリト同  
一ノ石炭ヲ判別スルニ当リ絶ヘス起ル處ノ  
紛議ヲ絶セント欲シ令ヲ下タシテ曰ク  
爾未石炭税ハ徵集セザルベシト依テパークス氏ハ其

職ニ由テ唯此ノ改正令ヲ同國人民ニ傳告セルノミ米  
國政府モ同一ノ理由ヲ以テ自國船舶ノ為メ同一ノ許  
可ヲ得タリ尋テ各國皆同一ノ契約ニ由リ石炭ヲ輸出  
スルモ日本政府ハ敢テ之ニ異説ヲ唱ヘス故ニ實際ニ  
於テカ、ル話説ハ全ク粗策ナル構造タル明カナリト  
ス而シテ数年前東京タイムズニ表出セル片モ頗ル世  
ノ嗤笑ヲ招キタルニアラスヤ其第三項ニ曰ク  
余ハ日本人就中廟堂ノ紳士ニ加ヘタル暴行ヲ記フ  
ベシ此事件ハ数年前神戸ニ起レリシトニシテ紳士  
ハ方今兩大臣ニ垂クヘキ參議ノ位置ニ居レリ然レ



氏余ハ事件ノ起リニ當時此頭職ニ居レリト了セラ  
ル、勿ラントヲ欲スルナリ事ノ根元ニ至テハ傍ニ  
在リテ目撃セル人ト虽氏能ク會得シ若シクハ相像  
スル能ハカレトモ談紳士ハ公使ノ為メニ捕獲セラ  
レテ其際途上ニ倒カレ頭部ヲ泥土ニ汚セリ其時数  
多ナル傍觀人ノ中ニエフ、ロウドル氏アリ氏ハ當時  
英國ノ官吏タリシガ今ハ日本ニ於テ有名ナル詞訟  
師トナレリ

己ニ前段ニ述シ如ク甚タ確實ナリト自称スル記者ニ  
對シテハ不幸ナガラ記者ガ己レノ話説ヲ鞏固ナラシ

メンガ為メ引用シ来レル目撃者ハ本日ノヘラルド新  
聞ニ投書シテ曰クハウス氏ハ己ノ名ヲ引用スルト虽  
氏是全ク無根ノトニシテ証據ト為スベカラス余ハ實  
ニハウス氏ノ話説ヲ鞏固ナラシムルト能ハザルナリ  
ト事此ハニ至ル最早ハウス氏ハ宜シク頭ヲ包シテ退  
クベキナリ氏ノ引用シ来レル証據人ハ氏ノ為メニセ  
スレテ却テ氏ノ虚妄タルトヲ証明セリバトックス氏ハ  
神戸ニ於テ參議若クハ其他ノ人ヲ侮辱マシトナシ實  
ニ是レ一篇ノ作言タルニ外ナラス蓋シ其頭ヲ泥土ニ  
テ汚セリトハ夫子自ラ称スルノ語ト云フヘシ而シテ

此ノ汚穢タルヤ恐ラクハ畢生拭ヒ去ル能ハサルヘシ  
好シ能フニモセヨ多年ヲ経<sup>過</sup>スルノ後ニアラサレハ  
期ス可ラサルナリ既ニ当地ニ在テハ同國ノ名望ナル  
人々ニ擯斥セレ遂ニ去テ跡ヲ海外ニ移シ以テ萬一ニ  
敵聽ヲ僥倖セント欲スト虽<sup>レ</sup>当地ニ於テハウス氏カ  
作言ハ総テ人々ノ擯斥スル所ナリ

余輩ハハルリ、パークス氏ニ比周シテ之ヲ并護スル  
者ニ非ラス氏ノ處置ニ関シテハ或ハ曾テ一致スル能  
ハスノ之カ説ヲナシタルトアリト虽<sup>レ</sup>公卒ヲ以テ外  
面ヲ脩節シ多少ノ知識ト才幹應用ヲ誤ルトハイト

ヲ抱キタル記者徒ラニ其處置ニ関シテ演スルノ議毀  
ヲ防護スルハ自カラ世ノ裨益トナルヘキヲ信スルナ  
リ但シ記者人ト為リ竊モ狡猾ニシテ且ツ粗策ナリ而  
シテ氏ノ英人及ヒ英國ノ政略ヲ惡ムトハ己ニ世ノ知  
ル所ニシテ其パークス氏ヲ嫌忌シ之ニ抵抗スルニ至  
テハ殆ント顛狂者ノ如ク然リ若シ彼レヲシテ危害ナ  
ル乱心者タラシメハ彼レ實ニ友人ノ為メニ禁錮セラ  
ルニ當レリ然レモ幸ニ彼ハ危害ヲナサス且又無智  
者ハ事務ヲ察セシテ一時ハ彼レカ為メニ惑ハサル  
トアレモ之レ又只暫時ニ過キス彼ノ説ノ虚妄ナル

一ノ世上一般ニ明知スルニ至ル蓋シ遠キアラサルベ  
シ斯ク一旦世ニ明ナル時ハ其危害ヲナサントスルリ  
勢カハ忽チ其時ニ於テ止ムベキナリ